

都市農地活用推進モデル事業

- 都内の生産緑地は相続税納税のためにやむなく売却される状況が続き、2022年問題によりさらなる減少が懸念
- 今後は生産緑地の貸借や買取申出された農地の公による買取りを促進し、都市農地の活用と保全を加速する必要
- 生産緑地の貸借制度を活用した高齢者向けの「セミナー農園」、買取申出された生産緑地を活用し農業者に新たな栽培技術試行の場を提供する「インキュベーション農園」を整備し、都が生産緑地の活用モデルを示す

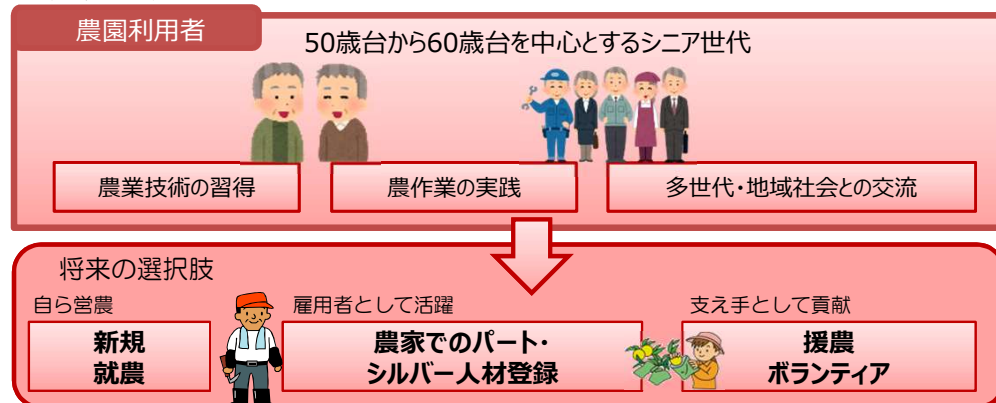
1 高齢者活躍に向けたセミナー農園整備事業 <貸借活用モデル>

【目的】

高齢者層が技術指導を受けながら農作業に取り組める「セミナー農園」を開設し、農地保全と高齢者の活躍を併せて進めるモデルを確立

【事業内容】

- 貸借可能な生産緑地のうち、**おおむね3千㎡程度の生産緑地を**農業者から**借入れ**(都市農地貸借円滑化法を活用)
- 貸借した生産緑地でセミナー農園開設に向けた基盤整備を実施
- 農園の管理運営業務を運営事業者に委託



スケジュール	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
高齢者活躍に向けたセミナー農園整備事業	候補地の選定	事業者決定 農園設計 農園整備	農園運営	農園運営	農園運営

生産緑地の貸借制度の活用による農園モデルを示すことで、シニア世代がより魅力を感じる農園運営の取組を促進

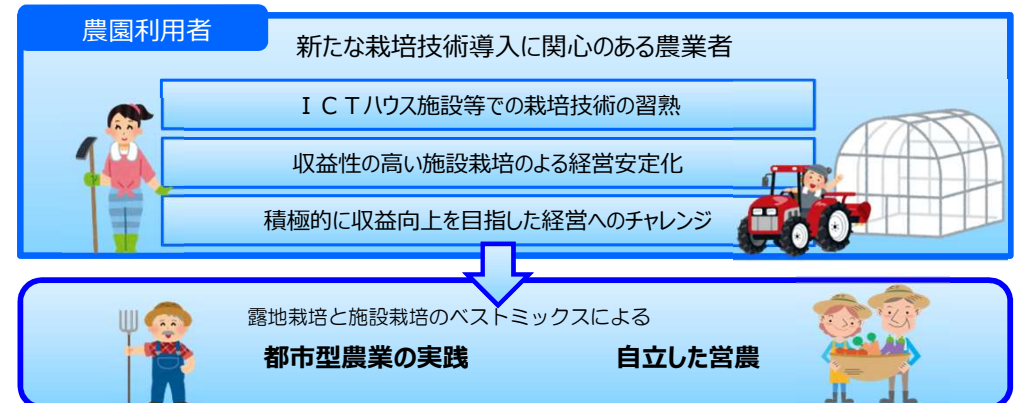
2 インキュベーション農園整備事業 <買取活用モデル>

【目的】

買取申出等のあった生産緑地に栽培施設等を整備し、施設確保が難しい農業者へレンタルすることで農業の高収益化へのチャレンジを支援

【事業内容】

- 買取申出等のあった生産緑地のうち、民間との競合の少ない郊外などに立地する**約1~2千㎡程度の生産緑地を都が農業者から買入れ**
- 買取った生産緑地に栽培施設(200㎡規模のパイプハウス)等を整備
- インキュベーション農園の管理業務を農業関連事業者等へ委託



スケジュール	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
インキュベーション農園整備事業	生産緑地の買取	農園設計 農園整備	運営運営	運営運営	運営運営

公有化による農地活用モデルを示すとともに、農業者の新たな栽培技術導入による高収益化に向けた取組を促進